

横浜市立



中川小学校だより 7月

令和8年6月30日発行

学校教育目標 人・自然・まちとふれあいながら、自分を高める中川の子



安心できる形で人や社会とつながる

校長 東野留美

梅雨の晴れ間に、少しずつ夏の気配を感じる頃となりました。新年度が始まって三か月が過ぎ、子どもたちはそれぞれの歩みで経験を積み重ねています。日々の関わりの中で見られる小さな変化や成長を、大切に受け止めていきたいと考えております。

さて、先日、『小学校～それは小さな社会～』というドキュメンタリー映画を観ました。実は公開当初にも一度観ていましたが、改めて観たくなり、このたび再び鑑賞した次第です。この作品は、日本の小学校に一年間密着し、子どもたちの日常の姿を通して、学校という場でどのような学びが生まれているのかを静かに描いたものです。その中で印象的であったのは、子どもたちが役割を担い、他者と関わりながら経験を積み重ねていく姿でした。うまくいくことばかりではありませんが、関わりの中で考え、悩み、少しずつ自分のあり方を見つけていく様子が映し出されていました。

本校でも、学級活動をはじめとする特別活動を通して、自分らしさを生かしながら仲間と心をつなぎ、皆で楽しい集団をつくることを大切に教育活動を進めています。学級会での話し合いや、係活動、日々の生活の中でのちょっとした役割など、子どもたちはさまざまな場面で互いに関わりながら学校生活を送っています。その中では、思いがすれ違ったり、うまく言葉にできなかったりすることもあります。そうした一つひとつの経験を通して、相手の気持ちに気付いたり、自分の思いを見つめ直したりすること自体に意味があるのだと思います。

ただ、互いの違いを認め合いながら関係をつくっていくことや、自分なりの関わり方を見つけていくことは、これから社会の中で生きていくうえで大切な力であることに違いはありませんが、一方で、子どもが人や社会と関わりながら成長していく道のりは一つではないと考えます。私が『小学校～それは小さな社会～』という映画を改めて観たくなったのは、学校のあり方を見つけないかと思ったからなのかもしれません。子どもによって学校での過ごし方も様々であり、多様な学びの場を含め、それぞれに合った歩みがあります。安心できる形で人や社会とつながっていくことが、何よりも大切であると、改めて考えさせられました。

本校では、これからも一人ひとりの子どもの歩みに寄り添いながら、その子らしい成長を大切に支えてまいります。保護者の皆様におかれましても、お子様の日々の姿を温かく見守っていただければ幸いです。

もうすぐ夏休みを迎えます。子どもたちがご家庭や地域の中で、安心できるつながりに支えられながら、自分らしく過ごし、さまざまな人との関わりを通して心豊かに成長していくことを願っております。